

# ドローン活用分野紹介

## 第一人者鈴木教授 東大講演

静岡理工科大



講演する鈴木教授＝袋井市の静岡理工科大

ドローンや無人ヘリコプターをはじめとした無人航空機分野の第一人者で、東京大大学院の鈴木真二教授の講演会が17日、袋井市の静岡理工科大で開かれた。学生や一般企業の関係者ら約100人が、日本航空宇宙学会会長や国際

航空宇宙連盟理事などを歴任した鈴木教授の講義に耳を傾けた。

鈴木教授はドローンの飛行原理を解説した上で、ドローンの活用分野を紹介。測量の自動化へ建設業界が注目しているとし、災害時の物資輸送への活用にも期待感を示した。

ドローンを活用した自動体外式除細動器(AED)の輸送実験に触れ、迅速な処置の開始につながると説いた。「ドローンが大型化すれば、人を運ぶ能力を持ちうる」とし、

人の乗れるドローン「空飛ぶ車」の開発が実現する可能性にも言及した。空中を直線的に移動するため地上より早く目的地に達し、渋滞の影響も受けないとの見解を示した。

無人航空機の機体開発や産業活用を模索・研究する無人航空機研究会(袋井支局・伊藤龍太)は、研究が主権。同会は今年秋発足し同大の教授らで構成する。同大の増田和三教授は「研究者ら開発する側と農業など活用する側をつなげる役割を担ってきたい」と見据えた。